

実行方法

本大会の名を以て決議文を制作し、宣傳ビラにのせ、大会直後宣傳を行はし、以て此の悪制度の即時撤廃をほかること。

共済會改革に關する決議案

平塚支部提出 説明者 今野健夫

決議

本大會は労働者を犠牲に供し、一層隷屬化せしむる偽善的勞資協調共済會の改革をほかることを決議す

理由

一 現在共済會は勞資共同負担、甚しきは労働者の全負担である、又資本家の支配により資本家の藩心忠僕が其の幹部となつて管理してゐる。そして共済會は労働者をして一層隷屬化せしめ、共済といふ偽善的美名をかりて、彼等資本家及政府が当然その責任を負ひ、全負担を以てなすべき救済の他の事に關して、労働者をその犠牲に供して

おるものである。これ故に共済會は労働者の日常生活にとつて關係深いものである。共済會は全従業員を以て組織されてゐるが故に、全従業員は同様にあり、その改革は全従業員の等しく懸望するところである。そしてその要求は、資本家及政府の全負担及労働者の管理權獲得である。かくて我々が共済會の改革を計ることは、一工場内の労働者の共同戦線の形成、共済團體の労働組合化にとつて重大なる關係を有し多大なる効果を與へるのである。

二 現在共済會に對して労働者は全、その信賴と期待とを失、その結果、然しなから救済は労働者にとつて必要であるが故に、労働組合を以て救済團體とし、又は共済團體ならしめんとするが、労働組合内部に共済組合を作ることは、労働者相互に救済すること、なり、従つて労働組合の戦闘的職分を失ふ懸念がある。従つて労働組合を築き進さず労働組合の戦闘的計画に資本家の負担による共済會を組織せしめ、又急には、意識的計画に資本家の負担による共済會を組織せしめ、又共済團體を労働組合へと轉換せねばならぬ。

三 資本家の全負担ならしめ、其の管理權を労働者の手に移し、又共済團體の労働組合化への、共済會の改革運動は、必然に勞資の闘争となす。従つて労働組合は、之れが爲に誠意を以て努力しをせねばならぬ。